



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「本邦研修その2～東日本大震災被災地に学ぶ～」号

2017年1月27日号 (Vol.38)

カウンターパート6名が受けた本邦研修の第2弾です。世田谷区で区の行政についてお話を聞いた後に、宮城県の東松島市に移動しました。東日本大震災から5年、これまでの東松島市の取り組みを学び、エボラ出血熱からの復興に活かすことを目的に、講義や視察を行いました。

東日本大震災は、シエラレオネでも大きなニュースとして報じられており、多くのシエラレオネ人が知るところです。震災の被災地訪問は、研修の企画段階で研修員を含めたカウンターパートから、どのように復興活動が続けているのか、復興における行政の役割や取り組みを知りたいとの要望を受けたことから実現に至りました。

まず、震災時の記録から当時の状況を知り、その後、現在の市内の様子を視察しました。震災時のダメージをそのまま残した駅舎等の場所では、研修員一同、想像以上の被害があったことに、言葉を失っていました。そして、震災から5年が経過した今も復興が続く現地を目の当たりにし、復興には長い時間がかかり、行政は忍耐強く取り組まなければいけないことを改めて感じたようでした。



震災の記録を見学



絆ソーラーパーク見学

東松島市では、震災の教訓を活かし、市民が安心して暮らせるまちにするため“有事に備える”備蓄倉庫やスマート防災エコタウン、コミュニティの活性化を目指した民間によるマーケット運営等の新しい取り組みも視察しました。このような取り組みは、シエラレオネのエボラ復興において参考となると研修員から高い関心が寄せられ、エボラ出血熱後に取り組んでいるまた来るであろう“エボラ出血熱(有事)に備える”ことと、シエラレオネの発展に向けた“コミュニティの活性化”は、行政官として具体的な活動をしなればいけないと話していました。



防災備蓄倉庫見学



スマート防災エコタウン見学

講義では、東松島市役所のご担当者に、東松島市が復興を進めるにあたり策定した復興まちづくり計画や震災後の復旧～復興、防災の具体的な事業、震災後の復興まちづくりに住民の意見を反映させるといった行政の取り組みについて説明を頂きました。研修員は東松島市役所がどのように復興に向けた計画を策定し、事業を実施しているのかについて、真剣に耳を傾けていました。被災者でもあった行政官が復旧、復興に尽力した話に、研修員は心を打たれたと言います。



東松島市役所での講義風景



講義いただいた東松島市役所高橋課長を囲んで

最後に、被災した市民お二人に震災当時、行政からどのような支援を受けたのか、市民の視点から貴重なお話を伺い、意見交換を行いました。行政サービスを受ける市民の声は、時として行政側とのギャップがあります。お二人の話を聞いた研修員から、改めて市民の意見を聞くことが大切だと感じたとの感想が聞かれました。



市民の方との意見交換

帰り際、お二人から頂いた励ましの言葉は、これからエボラ出血熱からの復興を目指す研修員の大きな励みになったことでしょう。

次号では、宮城県仙台市での保健行政に関する研修の様子をお伝えします。